

SAKURA

2013.3 March

No. 234

CONTENTS

- 02 / 魅力アップ支援事業 経済学部、ウインターランド
- 03 / 魅力アップ支援事業 栄養学科、観光学科
- 04 / 大学:雪害調査除雪ボランティア
看護大:看護学科学生懇談会
- 05 / 高校:卒業式、吹奏楽部が市内の中学校と合奏
- 06 / サッカーで学園内交流
- 07 / 幼稚園:ひな祭り、節分
- 08 / インフォメーション



観光学科ノースアジアツーリスト 慶熙大学校の学生と秋田空港で

秋田県私大・短大 魅力アップ支援事業報告

平成24年度は、秋田県私大・短大魅力アップ支援事業に大学から4件、短大から1件選ばれました。経済学部は今年度が初めての採択となり、観光学科は今までの事業が平成23年度で終了し、今年度から新たな事業が始まり

ました。栄養学科は昨年度新規に採択された「秋田栄養短期大学移動公開講座による“秋田県特産品マップ”的作成」を継続して行っています。この1年間の各学部・学科の今年度の取り組みを紹介します。

新規

経済学部採択事業

経済学部では、「交通が結ぶ生活基礎インフラと住民生活の質－秋田県における医療・商業・交通整備－」をテーマに、バスなどの公共交通が縮小している秋田で、高齢者や妊婦などの交通弱者の生活の質向上させるための方策を検討してきました。2・3年生が中心となって、教員から指導を受



けながら、県内では由利本荘市を中心にアンケートや聞き取り調査を複数回実施。また、他県の先進事例の見学や、学内や他大学で研究報告を行つて意見を募りました。それらをまとめながら秋田県ではどのような方策が有効なのか検討し、その結果を3月1日に由利本荘市で発表しました。

韓国の大学生と交流

ウインタースクール



1月21日から2月4日まで、韓国培材（ペジエ）大学校の学生を対象にウインタースクールを開催しました。

この講座は、日本語初学者向けの授業を中心に、華道や茶道、温泉体験、郷土料理実習など日本と秋田の文化を知るためのプログラムが組まれています。

この中の茶道体験で、お点前を披露した法律学科2年の西絵里子さんは「一人ひとり回って点て方を教えましたが、参加した皆さんには、何度も質問をして確認しながら真剣に取り組んでおり、茶道を楽しんでくれたようです。海外の方との交流は、新しい発見があり、良い経験になりますので、機会があつたらまたやってみたいと思います」と感想を話しました。

また、郷土料理実習では、栄養学科の学生と培材大生がきりたんぽ鍋、まぐろのとんぶり千草巻き、比内地鶏卵の

継続

栄養学科事業

栄養学科では、昨年度に続いて、地域の特産品をテーマにしたレシピを考えし、地域住民と学生が共に調理実習を行う



移動公開講座を県内各地で行いました。今年度は8・9月に横手市で寒天をテーマとした講座を皮切りに、2月15日には由利本荘市でフランス鴨、22日には秋田市で野菜を取る工夫、



23日にはにかほ市で鱈をテーマに講座を行いました。それぞれ地元の特産品や、馴染み深い調理方法を用いて、学生が講師役となって地域住民と調理し、試食しました。参加者からは「今までとは違う調理方法を知ることができ、参加してよかったです」といった感想が寄せられました。

新規

観光学科事業



観光学科では、2月18日から21日までの4日間、学術交流提携校の韓国・慶熙大学校の学生ら20人を招いて、学生による模擬旅行会社「ノーアジアツーリスト（NAT）」の社員が秋田県内の観光地を案内するモニターツアーを行いました。

これは、「インバウンド観光の推進 in 秋田－韓国の大学生を対象とする観光モニターツアーの企画・実施を通して」をテーマに、韓国の若い世代から意見を収集して韓国向けのパンフレットを作成し、継続して秋田県を訪問してもらおうという取り組みの一環です。4日間で、男鹿、横手、湯

沢、角館、田沢湖などを訪れ、移動中のバスの中ではNATの社員がこれから訪れる観光地の説明や秋田弁講座をハングルや英語で行いました。いずれの観光地も好評で、特にナマハゲや温泉が良かったと答える参加者が多かった様子です。今後は、これまでの取り組みを振り返りながら、モニターツアーで集めた参加者の意見を参考に、秋田県への観光客の誘致を検討していきます。



プリンの3品を作りました。

栄養学科生は「韓国の人々に料理を教えるのは難しいのではないかと思っていましたが、日本語が上手かつたのでスムーズにコミュニケーションが取れ、楽しく調理することができました。最初に作業の仕方についてお手本を見せて、その通りにやつ



てもらうと上手くいきました。特に苦手な食材もない様子で、わたしたちよりも早く食べ終えて『おいしかった』と言ってくれたので良かったと思います」と話しました。

学生たちは、英語を交えながら、この動作は韓国語で何というのかなどとお互い教えあいながら和やかに調理を進め、実習後は一緒に写真を撮りあうなどしていました。

除雪ボランティアをかねた雪害調査を実施

大学



法学研究所では、1月から2月にかけて5回に渡り、秋田市広面の谷地田町内で、雪による生活障害の実態調査を行いました。

調査は、学生が主体となって各世帯を訪問し、雪による障害の具体的な内容を聞き取る方法で行い、希望する世帯ではスコップなどで家屋周辺を除雪しました。谷地田町内は高齢者世帯が多い地域で、狭い路地に囲まれたところもあり、至る所に雪が残っていました。

参加した法律学科の学生からは「今回の調査から、車の通行よりも、生活する人の目線で除雪を行うことの大切さを知った」「玄関先を一生懸命除雪して感謝され、地域に貢献する喜びを実感できた」などの感想が寄せられました。



その後、ワークショップを行いながら調査結果を分析し、3月19日に報告会を開催しました。



看護学科「4年生を囲む懇談会」を開催

看護大



2月20日、学生食堂で看護学科の4年生を囲む懇談会を開催しました。

国家試験（看護師・保健師・助産師）を受験した4年生の労をねぎらいながら、来年度の国家試験並びに就職活動の有効な対応策を助言してもらうことを目的に、3年生が企画しました。

3年生たちは、国家試験の勉強方法やインターンシップの注意点、さらに採用試験における心構えなどについてのアドバイスを、真剣に聞きながら熱心にメモを取っていました。わからないところがあれば、先輩たちへ積極的に質問していた学生もいました。

また、4年生から参考書や過去問題集などを譲り受ける場にもなっており、各テーブルでは、終始和やかな雰囲気で懇談が行われました。



明 櫻 高 校

新たな一步を踏み出す 卒業式

3月1日、58回目の明桜高校の卒業式を学園内の古田記念講堂で挙行。349人が新たな一步を踏み出しました。

式では、各クラスの代表者に卒業証書を授与したほか、全国大会で活躍した生徒に小泉健理事長から表彰がありました。

続いて、挨拶に立った近藤和裕校長は、「これからが体に刻んでいく本当の学問の始まりです。自分の中に潜む可能性を追求し、自分の人生をつむぎながらひと足ずつ力強く歩んでいって欲しいと思います」と卒業生を激励しました。

また、在校生を代表して挨拶をした佐貫大知さん（2年）



は「先輩たちは熱く前向きな力に満ちあふれていました。その姿に自分ももっと頑張れると心に勇気が沸いてきました」と卒業生との思い出などを話しました。

これに応え、答辞に立った佐藤尊幸さんは「人と出会う事が決まっているのなら、この高校に入学できてよかったです」とあります。素晴らしい仲間との出会いがそれを感じています」と充実した高校生活を振り返り、今後の決意を述べました。

式後、生徒たちは父母が見守る中で担任から卒業証書を受け取り、高校時代の思い出などを語り友人たちと別れを惜んでいました。

吹奏楽部が合同演奏会を開催します



明桜高校吹奏楽部が、下北手中学校、城東中学校との合同演奏会を開催します。

明桜高校2年で吹奏楽部部長の安部亜紀さんは「これまで中学校との合同練習はありましたが、演奏会は初めての試みとなります。演奏会に向けて中学生の皆さんと合同練習を行いましたが、みな上手くなりたいという気持ちで真剣に取り組んでくれました。学校ごとの単独ステージでは、明桜らしくポップスを演奏します。それぞれの学校の良さに着目していただけたらと思います。合同ステージでは、サウンドの厚みが増し、一体感あふれる演奏を聴いていただきたいと思いま

す」と話してくれました。

たくさんの方々のご来場をお待ちしておりますので、お誘い合わせの上お越しください。

【日 時】 3月30日（土）

開場13:30 開演14:00

【会 場】 秋田県民会館

【入場料】 無料

【曲 目】 吹奏楽のための第1組曲 G.ホルスト
復興への序曲「夢の明日に」

(2013全日本吹奏楽コンクール課題曲)

ディズニーメドレー

アフリカンシンフォニー



高校生と一緒にボールに親しむ



2月4日、のびのび幼稚園・保育園に、明桜高校女子サッカー部のおねえさんたちが遊びに来てくれました。

幼稚園と保育園の園児全員がおゆうぎ室に集まるなか、リフティングやボール回しなど、普段どんな練習をしているのかを見せてもらいましたよ。

続いて年長さんもドリブルに挑戦です。おねえさんたちと一緒にについて上手にできるように教えてくれました。次に、年長さんとおねえさんが向き合って1対1でバスをします。最後に、みんな自由にボールを追いかけました。

年長さんはこの後おねえさんたちと一緒に給食を食べま



した。年中さんは一緒にご飯を食べることができなくてちょっとがっかりしていましたが、握手をしたり、抱っこしてもらったりして、来年は一緒に給食を食べることを約束しました。



2月14日、さくら幼稚園に、明桜高校男子サッカー部のおにいさんたちがやってきました。

この日を楽しみにしていた園児たちは朝からソワソワと興奮していました。おにいさんたちが毎日練習していることを見せて貰ふと「すごい」「はやい」「上手」などと歓声があがりました。

園児たちはサッカー教室でボールを蹴っているので、おにいさんたちが色々なことを簡単にこなすのに感心しきりです。特にリフティングでは、色々な技を見せて貰ふと、園児たちは大喜びでした。

お礼に、園児全員で「歌えパンパン」を歌つて、おにいさんたちと一緒に給食を食べて、楽しい交流会を満喫しました。





春の訪れを感じるひなまつり

のびのび
幼稚園



3月1日、のびのび幼稚園・保育園でひな祭りのお祝いをしました。

おゆうぎ室には立派な七段飾りのおひなさまが飾られていて、園児たちは興味津々です。ひな壇に飾られている人形を一つひとつ指差して、先生に「これはなに？」と熱心に聞いていました。

はじめに「うれしいひなまつり」の歌をみんなで歌って、先生からひなまつりの由来のお話を聞きました。続いて、保育園と幼稚園に分かれておゆうぎを披露します。まずは、保育園の園児が「サンサンたいそう」を、続いて幼稚園の園児が「くだものカーニバル」を踊りました。「くだものカーニバル」はみんな大好きなので、保育園の園児たちも一緒に、曲にあわせて踊りましたよ。

おゆうぎの後は、みんなで作ったおひなさまの工作の紹介です。学年ごとに工夫をこらして作ったおひなさまを、他の学年の園児にも紹介しました。園児たちは、おにいさんおねえさんが作った上手なおひなさまや、小さい子たちが一生懸命作ったおひなさまに感心して見入っていました。

最後は、先生たちによる劇「三匹の子豚」です。一つひとつの動作の特徴を上手くとらえた先生たちの演技にすっかり引き込まれ、子ブタと一緒に気持ちになって泣いたり笑ったりしていました。

今日の給食は、ひなまつりの特別メニューです。お吸い物や菜の花和え、カルピス三色ゼリーなど、見た目にも素材にも春の訪れを感じることのできる給食を楽しみました。



心の中のオニを退治しよう

さくら
幼稚園

2月1日、さくら幼稚園で豆まきをしました。

おゆうぎ室に集まって、園長先生から豆まきの由来のお話を聞いた後、自分の心の中のどんなオニを退治したいか、発表しました。「怒りんぼオニ」「勉強しないオニ」「予防接種の時泣いちゃうオニ」…それぞれ心の中にあるオニを退治しようと意気込んでいると、遠くから太鼓の音が聞こえてきて、園児たちの前にオニがやってきました。

迫力あるオニの登場で、みんな先生の後ろに隠れてしましましたが、先生たちからもらった「強い子マメ」を投げて、オニたいじです。

オニが参ったと言って山へ帰っても、驚きと怖い気持ちはすぐにはなくなりません。「オニのパンツ」をみんなで歌つ



てやっと笑顔が戻ってきました。年長さんの中には「年少さんの時も年中さんの時も泣いたけど、今年は初めて泣かなかったよ！」と胸を張る子もいました。

お昼には、退治した心の中のオニが戻ってこないように、特製のマメクッキーを食べました。



大学屋内練習場が完成



このほど、大学に屋内練習場が完成しました。これまで大学体育館として使用してきた建物に、新たに人工芝と防球ネットを設置し、大学の屋内練習場として生まれかわりました。2階には投球練習のスペースやウェイトトレーニングの器具も完備しています。

主に硬式野球部が使用しており、寒さの厳しい今年の冬ですが、練習を行っている野球部員たちは「寒さも感じず、

すぐに体も温まる」と感想を話しています。現在大学硬式野球部は、北東北大大学野球連盟の3部リーグに所属しています。野球場の内野が取れる広さの練習場が完成したことでの士気も高まっており、早期の1部復帰が期待されます。

なお、大学は今後、短大の体育館を共用することになります。



政権交代後の政治を解説

シティカレッジ

1月11日、40周年記念館で、総合研究センター主催のシティカレッジを開催しました。

今年最初の講演会は、福岡行政氏による「2013年の日本～政治・経済そして秋田県～」で、大雪にもかかわらず多くの参加者が来場しました。

11月には、衆議院が解散した当日に福岡氏の講演会があり、総選挙の結果を予想していただきました。今回は、自民党に政権が移って誕生した安倍内閣の今後と政界の動きについて解説。そのほか、外交と領土問題、震災後の東日本の現状、秋田県の今後について述べました。

質疑応答では、国会が解散する時に「万歳」を叫ぶのはなぜかという質問などがありました。



学生ボランティア活動が全国表彰される

学生たちの日頃の活動が高く評価され、本学が「交通安全優良団体」として全国表彰されました。交通安全優良団体とは、交通安全運動を積極的に推進し、交通事故防止に顕著な功績があった団体で、今年度秋田県で受賞したのは本学のみです。

国家試験等センターの研究室に所属する学生を中心に結成されたボランティア団体「秋田ボランティアアクティビティ（AVA）」に所属する学生たちは、大学周辺で、自転車のロックパトロールや交通安全・防犯関係のイベント補

助、放課後の小学生への勉学支援、朝の挨拶運動などを実行っていました。

学生を代表し表彰式に出席した法律学科3年の長俊一さんは「今回受賞できたのは、多くの方々のご協力のおかげです。わたしたちは、日頃お世話になっている地域のために少しでも恩返しがしたいという思いからボランティア活動を始めました。今後も地域の方々や秋田県・秋田県警・秋田市などとも連携しながら活動を続けていきたいと思っています」と語りました。